

令和3年度 理科

学年	学習状況の現状分析と課題	指導方法の課題・改善策・補充・発展指導
1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が落ち着いて授業を受けることができている。その一方で、落ち着いて授業を受けているように見えて、授業の内容を理解できていない生徒がいる。 ・自然現象に興味・疑問を持ち、調べたりすることができている生徒が多い。 ・基本的な知識を暗記することは多くの生徒ができているが、持っている知識を使い、思考したり計算したりする能力は、生徒により差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習内容の理解度を把握するため、こまめに小テストなどを実施したり、定期考査前に質問教室を開き、基礎基本の未定着の生徒や苦手意識のある生徒への対応をする。 ・単元が変わっても自然現象に興味・疑問を持ち、授業の中で、その疑問を主体的に解決していけるようにしていく。 ・知識を覚えさせるだけではなく、なぜそうなるのかをしっかりと理解させるように心がけ、それを定着させるための練習問題を用意したりしていく。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が授業をきちんと受け、積極的に学習課題に取り組むことができている。一方で基礎・基本の定着が十分にできていない生徒、理科に対して苦手意識を持っている生徒もいる。 ・多くの生徒が、観察・実験や自然体験、科学的な体験は好きで楽しいとする一方、科学的に深く考えることや科学の意義や有用性の理解については、生徒により差が大きい。 ・観察・実験の結果から与えられた課題については考察をまとめられるようになっている生徒が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で当たり前と思っている自然現象について、「なぜ」「どうして」と考えていく習慣を定着させる。 ・実験観察を重視した授業展開を行い、基礎操作や結果のまとめ方の定着を図る。 ・実験後にレポートを作成させることにより、実験の意味を考え、習得した知識の整理を図る。その中でレポート作成の手順や図・表の作成について生徒に応じて段階的に指導する。 ・定期考査前に質問教室を開き、基礎基本の未定着の生徒や苦手意識のある生徒への対応をする。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ①理科に対する興味関心は高く、問いや仮説の生成を自ら行い、積極的に探究活動に取り組むことができる。一方で、探究の課程を振り返り、次の探究へとつなげていくことに課題がある。 ②基礎的な知識や技能の習得については依然として個々に差があり、個に応じた指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①探究活動を行った後で、自分の探究過程を振り返る機会を取り、次の探究活動で生かせるように指導を行う。具体的には条件制御の方法や誤差の処理などの実験観察の技能的な面や、科学的な見方考え方の指導に重点を置く。 ②個に応じた指導をするために、選択式の課題や自己設定型の課題など、自分で選んで進めることができる機会をつくる。具体的にはICTの活用や、学びのポートフォリオの作成を通して自己調整力を養っていく。